

オリバー・トウィスト (1922)

OLIVER TWIST

メディア 映画

ジャンル ドラマ 文芸

製作国 アメリカ

色彩 B&W

初公開日 1924/

公開情報 劇場公開

【解説】

「キッド」での名演技が忘れ難いJ・クーガンがその2年後、8歳で主演した、ディケンズの同題の少年小説の名作中の名作の映画化。監督は戦前戦後を通じて息の長い活動が続けた職人F・ロイドで、ここでも的確な演出で、この古典のダイジェストにうまく成功している。さて、養育院育ちのオリバーだが、並みの子とは血筋が違うようで、9つの時、施設の食事のあまりのひどさに皆を代表して文句を言うと、即、そこをお払い箱。葬儀屋の助手として酷使され、こっそり抜け出すと、スリの少年と親しくなり、彼らの本拠でフェイギン（怪優R・チェイニー）に紹介された。彼こそが浮浪児スリ団の親玉で、早速、オリバーにスリの手ほどきをしてみせるのだった。さて、町に送り出され、いざひと稼ぎとなっても、勝手に未だ呑み込まぬオリバーは簡単に老紳士ブラウンローの前で失敗して捕らえられたが、正直に話したことで、彼の邸に引き取られ、幸福の温もりを味わう。だが、オリバーに一味のことを洩らされてはたまらない、とフェイギンは悪漢ビルを使って、少年をそこから連れ出す。そのオリバーの身の上を色々嗅ぎ回る人物がいた。彼の異母兄モンクで、少年の父の遺言を知って、彼が受け継ぐべき財産を横取りしようと狙う輩だった。悪党はみな結託して少年の命を狙う。それをビルの情婦ナンシーは老紳士に内通して、報復に殺されてしまう。が、ここで警察の手が入り、オリバーは助かり老紳士と仲良く暮らしていくことになる。紳士は少年の実のお祖父さんだったのだ。色白で女の子のように見える可愛いクーガン坊やが危機の連続に見舞われる。そんな無声映画らしいテンポのよさも魅力である。

【クレジット】

監督	フランク・ロイド	Frank Lloyd
原作	チャールズ・ディケンズ	Charles Dickens
脚本	ハリー・ウィール フランク・ロイド	Frank Lloyd
撮影	グレン・マックウィリアムズ ロバート・マーティン	Glen MacWilliams Robert Martin
出演	ジャッキー・クーガン ロン・チェイニー ライオネル・バリモア ジョージ・シーグマン カール・ストックディル グレディス・ブロクウェル エスター・ラルストン	Jackie Coogan Lon Chaney Lionel Barrymore George Siegmann Esther Ralston